

## 産婦人科診療と腹腔鏡下手術

---

産婦人科では産科、婦人科領域の双方を外来および病棟ともに業務を行っております。周産期（出産前後の期間）関連につきましては小児科の先生方、助産師さんや看護師さんと連携して診療にあたっています。

外来に関しましては、月曜日から金曜日の午前中初診を原則的に制限なく受け付けており、地域連携室を通しての事前予約もできるようにしています。午前中は2〜3診体制で産科担当、婦人科担当ならびに初診担当で行っています。午後は火曜日に産後1ヵ月健診(母)、木曜日に術前術後外来を設けております。母体搬送も受け入れていることから、これらの業務と重なると人手不足になるため、外来診療においてはしばしば患者さまをお待たせしてしまうこともございますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

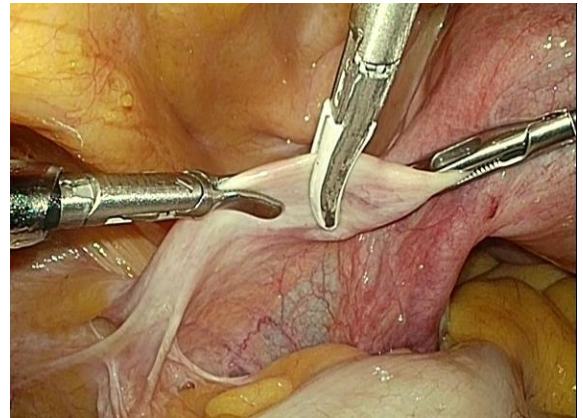
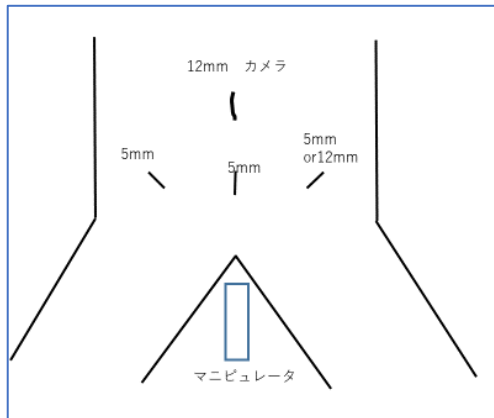
手術に関しましては月、水、金曜日の午後に行っています。1日に行われる手術はおおよそ1〜3件になっています。術式は帝王切開、円錐切除術、子宮全摘出術、卵巣嚢腫摘出術等の産婦人科領域で一般的に行われているものを施行しています。

これらに加え産婦人科領域においては鏡視下手術として、腹腔鏡下手術および子宮鏡下手術も行っています。当科ではかつて、良性卵巣腫瘍に対する腹腔鏡下卵巣腫瘍摘出術のみを行ってきましたが、近年の手術機器の発達や体に負担の少ない低侵襲手術への社会的要求の高まりも踏まえ、その適応を拡大してきています。現状では子宮鏡下子宮筋腫摘出術、子宮鏡下子宮内膜ポリープ切除術、腹腔鏡下子宮筋腫摘出術および腹腔鏡下子宮全摘出術等も行うようになり、昨年度は年間80例近くの鏡視下手術を行いました。

これに伴い、当院医師1名が日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医を取得しました。さらに、来年度からは内視鏡学会認定施設への申請も検討しています。腹腔鏡下手術の利点としては開腹手術に比べて手術痕が小さく、術後疼痛の軽減や入院期間の短縮および早期社会復帰に貢献できることが挙げられます。また、鏡視下で拡大した良好な視野が得られることにより微細な手術を行うことが可能であると考えます。適応にならないケース(大きすぎる子宮筋腫など)もありますが、ご希望がありましたら気兼ねなくご相談いただければ幸いです。

今後も地域の先生方と連携を図り、質の高い治療で地域に貢献できるように努力していきたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

☒



腹腔鏡下手術では、臍からカメラを挿入しさらに 2-3 本のポート(管)を挿入して手術を行います。症例によっては経膈的にマニピュレータという管を挿入するケースもあります。

【産婦人科診療部長 小松 央憲】

